

風水害に備える

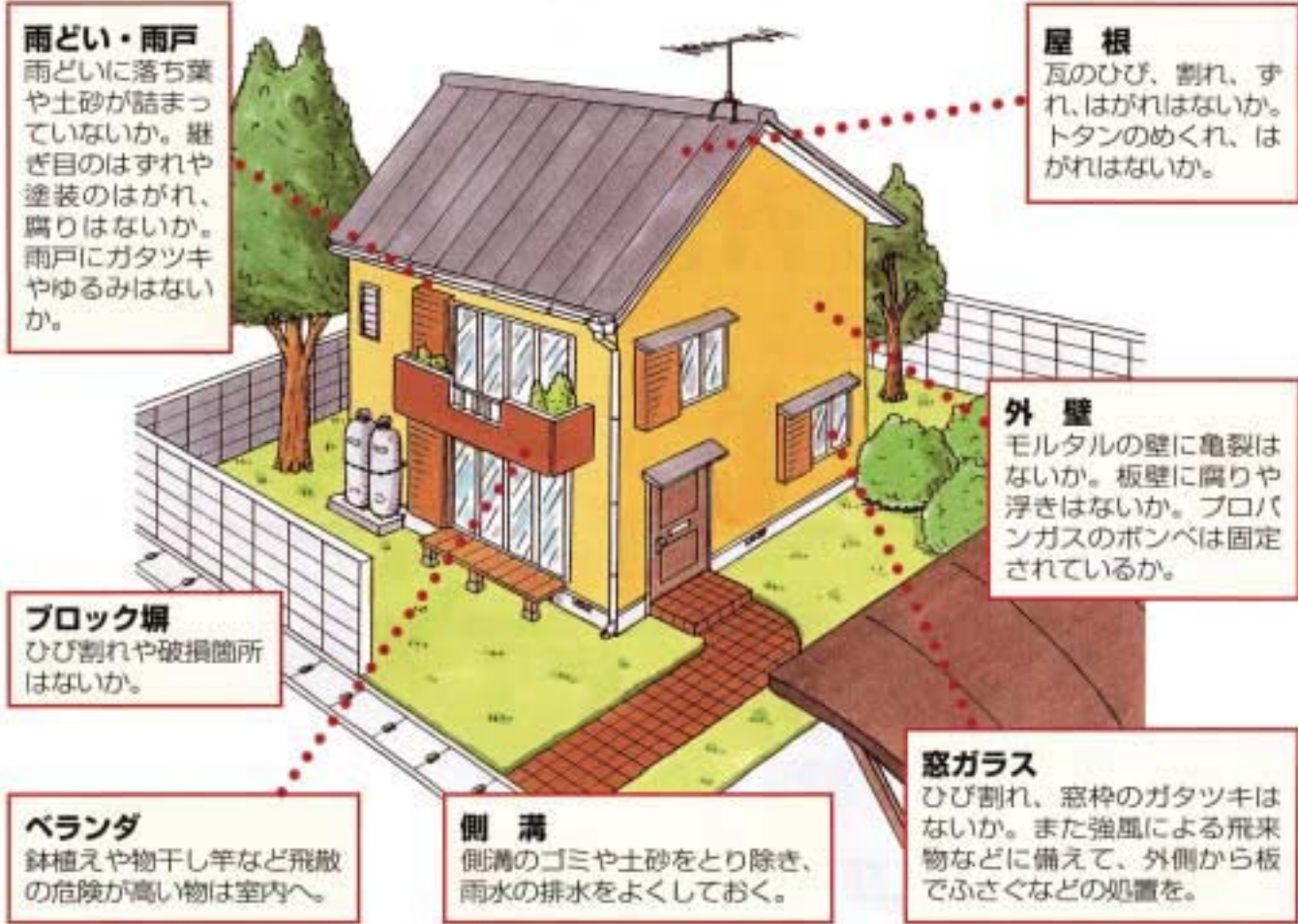
自分を守る 風水害対策

自助

家の内外の風水害対策

屋外

台風や豪雨の到来は予測できるからと安易に考えてはいけません。大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。油断せず日頃から十分な対策を立てておきましょう。



屋内

停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの準備を。
避難に備えて貴重品などの非常持出品の準備を。
気象情報を注意深く聞く。
むやみに外出しない。

断水などに備えて、飲料水などを確保しておく。

浸水などの恐れがあるところでは、家財道具や食料品、衣類、寝具などの生活用品を高い場所へ移動。

高齢者や乳幼児、病人などを安全な場所へ。



洪水のときはこうして避難

洪水からの避難ポイント

洪水の中を避難する場合、とくに足元には十分に注意を払いましょう。子供やお年寄りからは目を離さず、手を引くなどの手助けを忘れずに。

- 1 はき物**
裸足、長靴は禁物。
ひもでしめられる
運動靴がよい。



- 3 歩ける深さ**
歩ける深さは男性で
約70cm、女性で
約50cm。水深が腰まで
あるようなら無理は禁物。
高所で救援を待とう。



- 2 ロープでつながって**
はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しよう。とくに子供から目を離さないように。



- 4 足元に注意**
水面下にはマンホール、側溝などの危険が潜んでいる。長い棒を杖がわりにして安全を確認しながら歩くこと。



- 5 子供や高齢者を安全に**
高齢者や病人などは背負う。幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用して安全を確保する。



被災後の安全点検

台風や豪雨が去った後は危険が潜んでいることが多いので、地域ぐるみで協力し合いながら安全に復旧活動しましょう。

断線した電線が家屋などに触れていないか（木製の棒などで安全な場所へ移す）、落下や倒壊の危険物はないか。あればただちに補強や除去を行う。

浸水の被害にあったら消毒を念入りに。水害を受けたら衛生に注意。水道水は煮沸し、手の消毒を忘れないなどの注意が必要。

活動時にはけがをしないよう、肌を露出しない服装で。ヘルメットも着用して落下物に備えたい。

家の中は風通しをよくして乾燥させる。

